学校番号	T3011

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「美術１」　（光村出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・毎授業時間、最初に 10 分程度のスケッチを行い、鉛筆描写を日常的な習慣にする。
・カッターナイフなどの道具を正しく安全に使えるようにし、毎時間配布されるプリントを糊で貼り、きちんと製本化する。
・一番の目標にそれぞれの作品を完成させることとし、展示できる状態に仕上げる。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりする ことができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】
主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	自身の構想したものを的確に道具を駆使し、思った通りの表現できる技能を持つ。 美術・デザインの作品に対して理解を持ち、自身の創造性に繋げる。 日常生活において、発見すること、日常的に描写する習慣を持つ。	題材に対して、独創的な発想、アイデアを、多様で網羅的に生み出し、それをスケッチなどで視覚化し作品の制作にあたる 制作し完成した作品にどれだけの工夫を凝らしたか、作品の完成精度も考慮する	題材に対して、日常的に目にする物の中に、ヒントになるものを見いだす意欲、意外性の中に、面白いものを見つけ出す態度を身につける。 制作の過程、着想などにおいて、集中度を高め、忍耐強く取り組む。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
通年毎時間	絵画	「スケッチ、デッサン」 (10～15 分)	a:陰影をつけ、立体感を出す。 b:モノの構造を、視覚的に見る。 c:根気よく、モノを観察し描写していく。	スケッチ用プリント	スケッチ用プリント	スケッチ用プリント
前期1	構成	「ワイヤーフレーム」 (双曲放物線面)	a: 双曲放物線の引き方の理解。 b: 線による構成から、自分自身の発想を表現する。 c: 線で分割された面を視覚的に効果があるように丁寧にペンで塗る。	練習用プリント	完成作品	道具の効率の良い使い方を授業中に見る。
前期2	版画シルクスクリーン	「シルクスクリーンでTシャツ顔をプリントする」	a:カッターナイフで、丹念にグランド原紙を切る。 b:顔のデザインを、顔写真をもとにデザインする。 c:自分の気に入った顔写真をたくさん集め、丹念に創意工夫されたデザインを作る。	グランド原紙を切る。	顔のデザインの下絵	刷り上がったTシャツ
後期1	色彩デザイン	「マスキングを使った色彩平面構成」	a:マスキングテープを使った直線の面積比のバランスの取れた構成をする。 b: 工夫した絵具の混色を適切な構成をする。 c:絵具を丁寧に斑なく塗る。	マスキングテープの貼り方	絵具の混色具合	完成作品
後期2	プロダクト	「車輪のホイールのデザイン」	a:厚紙を有効に加工して、立体的に表現する技術を使う。 b:車輪の円形全体を、シンメトリーに、半立体的に表現する。 c:実際に存在する様々なホイールのデザイン例を集め、自分の独自のデザインを作る。	ハサミ、カッターなどの道具を駆使する。	完成作品	作品のためのアイデアスケッチ
後期3	木彫	「ペーパーナイフ」	a:カッターナイフ、彫刻刀、サンドペーパーを適切に使う。 b:独特なナイフの形を考える。 c:仕上げ。研磨、塗装を丹念に行う。	制作途中の作業	アイデアスケッチ	完成作品

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度